

本年度の研究の概要

1 研究主題

「家庭学習を意識した授業改善の研究」

2 主題設定の理由

これまで、本校では『すべての児童が「わかる」「できる」を実感できる楽しい授業をめざして』～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を通して～のテーマで研究を進めてきた。特に「授業の見える化」により、次に何をすることがわかることで児童が安心して授業に参加できることが確認され、今後もすべての児童が「わかる」「できる」を実感できる授業づくり・授業研究を進めていくことの必要性を感じてきた。

合わせて、近年、児童の学力向上には「授業改善とその授業に深く関わる家庭学習の充実が不可欠」で、家庭学習を定着させるための児童の「自己学習力」向上を意識した取組も求められている。そこで教員と保護者がそれぞれの役割を果たし、生活習慣をも踏まえた学習習慣の確立に向けて、教員・保護者の意識向上も進めながら、授業と家庭学習の有機的な結びつきについて考えていくことが、児童の学力向上には必要であると考えてきた。

児童の学力向上のための授業改善には、これまでに取り組んできた、「ユニバーサルデザインを取り入れた授業の『構造化』」の取り組みを活用していこうと考える。授業の学習展開を事前に児童が把握できるようにし、終末までの見通しを持って学習活動に児童が取り組めるようにすることで、児童は学習意欲を高めることにつながると考えられるからである。また、単元の学習計画を児童とともに明確にすることも行う。そのことが、学習全体の中でのその学習活動の位置づけを児童が理解することを促すと共に、計画性を持った家庭学習の展開、学習習慣の確立及び学習内容の質の向上ということにも寄与してくれるものと期待する。

これまでの研究を生かしながら、昨年度はその考え方を家庭学習にまで広げ、児童に確かな学力と自立する力をつけさせていこうとしてきた。家庭学習については家庭との連携が不可欠なので、学年ごとに家庭学習のめあてや身につけたい力などを書いた「家庭学習の手引き」の配布を行った。家庭学習強調週間を設け保護者に対しても家庭学習の意識づけを行ってきた。

授業と家庭学習を有機的に結びつけるために、児童が家庭学習を予習として授業に関わることに取り組んだり、授業をきっかけとして復習やさらに深く調べるといった内容に取り組んだりできるようにめあてや目的を持てるような工夫を授業に取り入れたりしてきた。それには「やまなしスタンダード」を意識し、ユニバーサルデザインを取り入れる事が、有意義であると考えた。授業改善し、授業と家庭学習の有機的な結びつきについて取り組んできたことを一人一実践してきた。

そこで今年度は、昨年度の研究の成果を活かし、児童の学力向上に向けて継続した家庭学習への取組と授業の改善に取り組んでいきたい。

3 研究主題のとらえかた

(1)家庭学習について

家庭学習の概念は、教科に関する学習や楽器演奏・歌、工作・絵画、スポーツなどを含めて、「自分で計画を立て実行すること」「分からないことや知らないこと、興味あることを調べ、覚え、論理的にものを考えたり文章にまとめたりすること」「家庭・地域社会において社会性を身に付け、集団の一員として活動すること」など多様であると考えられるが、ここでは『自分で決めた課題などを、家庭において机などに向かって行う学習』ととらえ研究を進めていきたい。

理由としては、「家庭において机などに向かって行う学習」に焦点化した方が家庭学習の目標や時間の目安を確認しやすいこと、教員間の共通理解が図りやすいこと、また教員が家庭学習としてとらえる児童の姿として、机などに向かって学習している様子をもとにしていることが多いことなどが挙げられる。

家庭学習の定着とは、家庭での学習が一時的な現象ではなく、一日の生活時間に位置づけすることが当たり前になった状態をいうこととしたい。

(2)授業改善について

授業改善には、授業規律の見直し・確立、定着、児童への学び方指導、家庭への働きかけ等を含む。家庭学習を授業の延長あるいは前提として位置づけ、内容提示と授業での取り上げ方について工夫することと考える。授業改善の視点として「やまなしスタンダード」を取り入れる。

4 研究の目的

児童の学習習慣を確立し、「自己学習力」を育てるための授業改善を研究することで、確かな学力と自立する力を身につけた児童の育成を目指す。

5 研究計画

29年度 つかむ

理論研究及び実態調査から、本校における家庭学習のとらえ方を確立する。

30年度 深める

実態調査をふまえ、家庭学習の確立と授業改善への取組

1学期

学習状況調査、学力把握調査による実態の確認

家庭学習の実態調査(児童・保護者)

学習習慣確立のための取組

提案授業

2学期

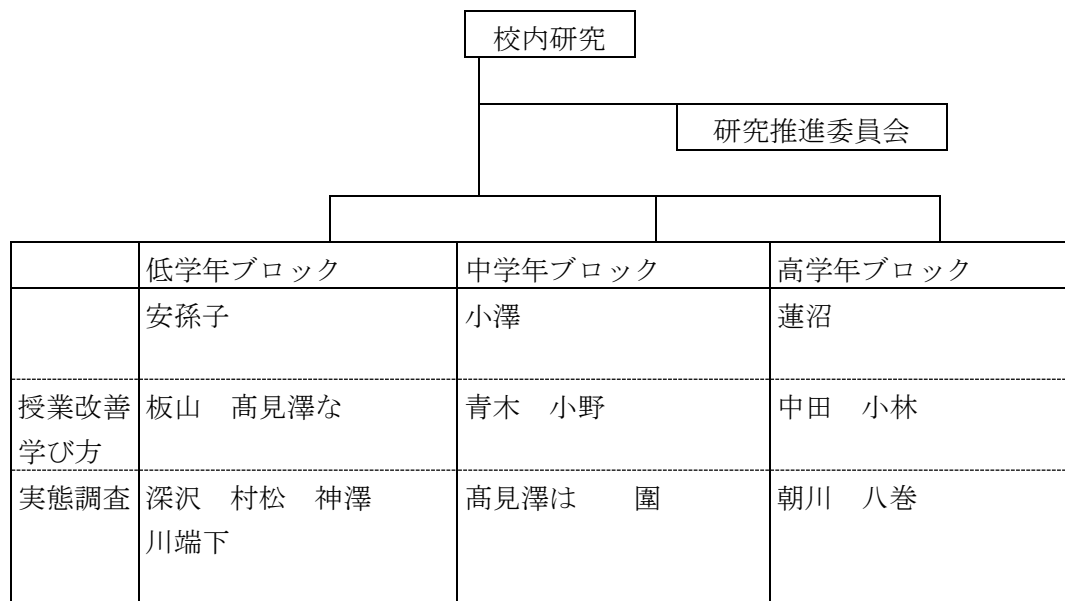
学習習慣の確立のための取組

授業実践(一人一実践)

3学期

研究のまとめ

6組織



※児童の発達段階とかかわりのある研究内容のため，今年度も低・中・高の3つのブロックに分かれて実践を重ねていくようにしたい。